

説教余滴、2018年1月18日、レコンキスタ、

イベリア半島の国土は大きくありません。しかし歴史的、時間的なスペイン王国は、広大無辺です。現代の世界中でスペイン語を使っている国家や人口の数を考えると分かります。

前3世紀頃のイベリア半島に繁栄していたカルタゴの植民都市は、ポエニ戦争を契機にローマの属州となり、ラテン化が進みます。5世紀のゲルマン民族の侵入では西ゴート王国が建国されたが、8世紀にはウマイヤ朝イスラム勢力が進出してこれを滅ぼし、その後、後ウマイヤ朝が成立してカール大帝のフランク王国とも抗争。都のコルドバは、ギリシア・ローマ文化を継承発展させたイスラム文化の中心の一つとして繁栄しました。

イスラムの支配に対するレコンキスタ(再征服・国土回復)は、スペイン北部のアストゥリアスとピレネー地方を出発点として行われた。アストゥリアスには10世紀にレオン王国が成立し、またカスティーリャ王国がレオンから分離した。11世紀にはカスティーリャ王国がレオンを併合し、ナバラ王国からアラゴン王国が分離した。

これら諸国の南進によってイスラム勢力は南に追われ、13世紀にはコルドバ、セビーリャがスペイン人の手に帰した。この過程でアラビア語文献のラテン語への翻訳がトレドなどで盛んとなり、中世ヨーロッパ文化を刺激した。15世紀後半即位したカスティーリャ王国のイサベル女王とアラゴン王国のフェルナンド王の結婚(1469)によって、両国は統一された。この「カトリック両王」の下に1492年、イスラムの最後の根拠地グラナダは陥落し、レコンキスタは成功した。なお、レコンキスタの過程で、スペインは封建社会に移行し、ポルトガルはスペインから分離しました。

レコンキスタの成就により、イベリア半島は精力を海外に注ぐようになります。香料の産地を求める航海、宗教改革に対抗するカソリック内の改革、海外宣教などです。